

にじいろ



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

茨城県西部メディカルセンター

Ibaraki Western Medical Center



病院理念

地域の中核病院として患者中心の良質な医療を提供します。



左から 整形外科 原医師 柴尾医師 手術室にて

6ページ

院内クローズアップ
「整形外科」



筑西診療所の訪問診療の様子 (佐々木医師)

2ページ

退院後の生活に向けた
院内での取り組み
～患者さんが住み慣れた場所へ
戻るために～

4ページ

チームで支える在宅療養
～住み慣れた我が家で自分らしく生きるために～

新連載★

8ページ

わたしの推し

医師



病気の悪化だけでなく入院自体も患者さんの心身の衰えにつながります。医師はできるだけ早期に患者さんを入院前の生活に回復させることを目指しています。退院支援カンファレンスにおいて、医師は患者さん本人、家族、療養に関わるスタッフに、わかりやすく病状や療養上の注意事項を説明することで不安の軽減、再入院の予防に努めています。

患者さんが住み慣れた場所へ戻るために

超高齢社会を迎え、住み慣れた場所で平穏な自立した生活を送ることが容易でないと感じている方も多いのではないのでしょうか。怪我や体調不良、病気をきっかけに入院し、生活が大きく変化することがあります。

当院では、入院をしても患者さんが住み慣れた場所へ戻ることができるように、それぞれの専門職が連携し、チームとして患者さんを支援しています。チーム医療に欠かせないカンファレンスを紹介します。



内科カンファレンスの様子

患者総合支援室 主任 看護師 菊池 朝子



カンファレンスは、医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・ソーシャルワーカーなどの多職種で行い、患者さんの病状や入院前の生活の様子、家族の介護状況や患者さんを取り巻く支援体制などを共有しています。患者さんと家族の思いをチームの皆で受け止め、退院後の生活を見据えながら専門的な視点で意見を出し合い、生活へとつなげています。

また、地域とは退院前にカンファレンスを含めた連携をし、スムーズな生活の場への移行ができるようにしています。特に患者さんの生活を支えてくれる在宅のサービスとの退院前に行うカンファレンスの開催は、地域包括ケアシステム構築のための多職種間連携強化の取り組みでもあります。

カンファレンスを通して地域の協力をいただきながら、質の高い医療・介護サービスの提供に努めております。



リハビリテーションスタッフ



患者さんの入院前生活や住宅環境等を確認させていただき、カンファレンスにて自分らしく、安心して生活出来る様、多職種と連携し検討させていただきます。また、現在の身体機能で安全に行える動作に関しても、ご家族へ説明を行い、必要に応じて介助方法の指導や住宅環境の整備、介護保険等の社会資源導入についても提案を行っています。

ソーシャルワーカー



患者さんやご家族の意向を踏まえた上で、退院に向けての生活がより明確にイメージできるよう、総合的な目標についてカンファレンスにおいて共通認識を図り、多職種・他機関、医療・福祉を結びつける役割を担っています。

看護師

退院支援はチームで方向性を共有して取り組むことが重要です。最も近くで患者にかかわる私たち看護師は、入院時から退院目標を明確にして多職種で医療上の課題や生活・介護上の問題点をアセスメントし、マネジメントすることが大切になります。患者・家族がより良い方向に退院できるよう、支援していきます。



管理栄養士

退院後に食事療法が必要な患者さんには、医師の指示のもと、ご本人またはご家族へ栄養指導を行っています。一人暮らしで食生活に不安がある方、塩分などの制限がある方へは、患者さんに合わせた食事内容を提案しています。また、食べやすくするための食形態や無理なく実行できる食事の工夫など患者さんに合わせたアドバイスもしています。



薬剤師

薬剤師は、患者さんに最適な薬の使い方のアドバイス、実践をするとともに、多職種の薬剤の知識をサポートしています。

患者さんが退院する際には、退院時服薬指導として、次回の外来受診まで薬剤が不足しないように準備するとともに、入院中に調剤したお薬をお渡しします。そして退院後も薬剤を不安なく服用できるように、写真と簡単な説明文章を記載した「薬剤情報書」や、退院後の外来診療または保険薬局での調剤に必要な情報を院内外の他職種に提供するための文書となる「お薬手帳ラベル」をお渡ししています。



Special Thanks

内科 医長 寺田 真
3B病棟 師長 仁平 直美
栄養管理科 科長 中島 みどり

リハビリテーション技術科 科長補佐 福島 好明
患者総合支援室 室長補佐 宮城 裕美
薬剤科 科長 仙波 藤男

住み慣れた我が家で自分らしく生きるために

筑西診療所 副所長 飯島 明子

私たちの住む日本は、諸外国に比べ超スピードで高齢化が進んでいます。筑西市も高齢化率は32.5%（2023年7月）です。また少子化の傾向も顕著となり、高齢者を支える現役世代の人数も減少してきていることから、従来の「入院」を中心とした医療・介護の提供体制から、可能な限り人生の最後まで住み慣れた地域で安心して生活できる仕組み（地域包括ケアシステム）の構築、つまり地域住民で高齢者を支え合う「在宅療養」への転換が求められるようになりました。

在宅療養ってなんだろう??

大切な家族の誰かが、病気になり通院できない場合に、病院でなく、自宅などで治療を行うことが在宅医療であり、通常病院で行われる入院医療や外来医療に次ぐ第3の医療として、多くの人に受け入れられるようになってきました。「我が家に帰りたい、最期の日には我が家で迎えたい、家族みんなといつも一緒にいたい、…」という患者さんの思い、「いつもそばで寄り添っていてあげたい、最期は好きだったこの家で家族みんなで見送ってあげたい、…」というご家族の思い、両者の思いから在宅療養は始まります。

理学療法士・作業療法士

基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて、患者さんが自立した日常生活が送れるよう支援する役割を担っています。

ソーシャルワーカー

- ・患者さんやご家族の心理的・社会的問題の解決支援
- ・在宅移行の調整および移行後の生活支援
- ・患者さんや家族の経済的問題（医療費や生活費など）の解決支援など、在宅療養する上で、発生するさまざまな問題に対して、支援・援助する役割を担っています。

介護支援専門員

要介護者や要支援者の人の相談や心身の状況に応じるとともに、サービス（訪問介護、デイサービスなど）を受けられるようにケアプラン（介護サービス等の提供についての計画）の作成や市町村・サービス事業者・施設等との連絡調整を行う役割を担っています。



医師

定期的に在宅患者さんの全身状態や疾患に関する状態を診て、診断や治療を行い、在宅医療に関わる医療関係者に適切な指示をだします。在宅医療において中心的な役割を担っています。

医療事務

医療保険と介護保険の両制度を理解し請求事務を行っています。

訪問看護師

在宅患者さんの様々なケアを実際に行うのは看護師で、日常の在宅医療の要としての役割を担っています。患者さんだけでなく、ご家族のサポート（看護・介護のアドバイス、精神的支援や相談）や医師、介護事業所との連携も重要な役割です。

薬剤師

在宅患者さんの薬がきちんと決められたように飲まれているかどうか、薬の飲み合わせや副作用の問題はないかなど、チェックし、より効果的な薬の使い方をみています。薬剤師は在宅医療において、在宅患者さんの薬剤管理指導などの役割を担っています。

【退院前カンファレンスについて】

病院を退院し、在宅医療に至る患者さんの退院前カンファレンスに、私たちは在宅医療チーム側として参加します。ここで大切にしていることは、患者さん・家族の思いを知ること、患者さん本人の意思や夢（したいこと）家族はどうしてあげたいのか？などを聴かせて頂いています。「話し合う過程・共有するプロセス」を大事にする考え方としてアドバンスケアプランニング（ACP）が重要であると考えています。また病院側から事前に頂いた情報を把握し、よく考え、病歴の確認をし、予測されること、在宅で困ることはないかなど、問題の抽出をしておくことも大切なことです。可能であれば入院中から栄養の摂り方や内容を検討して頂いたり、減薬して頂けるか等を確認したりもします。患者さん、家族が安心感をもって家に帰れるように、病院から私たち在宅医療チームへ、現在の病状についてや今後の起こりうることとその対応について等、きちんと申し送りをして頂いています。介護サービス提供職種とも連携し、在宅療養がどのようなものかイメージしていただくことを大切にしています。

【アドバンスケアプランニング（ACP）とは】

ACPは、将来の意思決定能力の低下に備えて、今後の治療・療養について患者・家族等とあらかじめ話し合うプロセスのことをいいます。意思決定に至るまでのプロセスを、患者・家族等・医療・福祉従事者が共有することが重要だという考えに基づいて行われます。

- ①患者と家族等が、現在とこれからの病状を共有したうえで、患者が生活や療養で何を大切にしたいかなど、治療・ケア、生活を希望し、そして、して欲しくないと考えているか、その理由はなにか明らかにします。
 - ②それを医療・福祉従事者ととも共有することで、家族等は医療・福祉従事者ととも直面する複雑な医療状況に対応することが可能になります。
- 大切なのは、いつ誰とどのタイミングで…コミュニケーション方法を工夫して、患者に負担をかけないことが重要です。



副病院長兼整形外科診療科長 中川 司

当院の整形外科では、運動器（骨・関節・筋肉・腱・靭帯・神経など）の疾患全般に対し、地域の医療機関と連携して患者さんの病態に応じた治療を提供しています。特に、脊椎疾患（頸椎症性脊髄症・腰部脊柱管狭窄症などの除圧、固定手術）や関節疾患（変形性股関節症・変形性膝関節症に対する人工関節手術）、骨粗鬆症の治療及び同疾患に伴う骨折に対する手術、関節リウマチに伴う関節疾患や脊椎疾患の手術等の治療を行っています。

今回は、柴尾医師と原医師による脊椎脊髄外科診療についてご紹介をいたします。

当院における脊椎脊髄外科診療

整形外科 医長 柴尾 洋介

体制

2022年4月に柴尾医師、7月には原医師が赴任し、脊椎脊髄病学会認定指導医2名体制で、脊椎疾患に対して幅広く対応しています。安全な診療を第一に心がけ、必要に応じて手術介入を行っています。難症例には、更に経験豊富な筑波大学附属病院スタッフと連携をとり手術を行います。



手術例

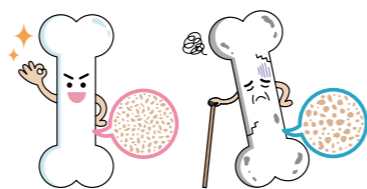
頸椎椎弓拡大形成術（ラミノプ्लाスティ）/頸椎後方除圧固定術（頸椎後縦靭帯骨化症手術）、頸椎椎間孔拡大術、頸椎前方固定術、環軸椎/後頭骨除圧術/固定術、胸腰椎除圧術（腰部脊柱管狭窄症）/ヘルニア摘出術（顕微鏡下）、黄色靭帯骨化症手術、PLIF、XLIF/OLIF（側方進入前方椎体間固定術）、X-Core（側方進入椎体置換術）、BKP（圧迫骨折・椎体骨折に対する経皮的椎体形成術）、腰仙椎後方固定術、低侵襲経皮的後方固定術(PPS)、椎間板酵素注入療法（ヘルニコア）



※特殊な技術を要する思春期特発性脊柱側弯症、髄内腫瘍・脊椎腫瘍根治術などは、より専門性の高い施設に治療を依頼する場合があります。

当院で特に多い疾患：骨粗鬆症性椎体骨折

筑西市は65歳以上の高齢者数が全国の高齢者数比率を大きく上回っており、骨粗鬆症性椎体骨折の症例も年々増加しています。当院では骨粗鬆症性椎体骨折に対しても、外来加療から入院手術加療までニーズに応じた加療を提供いたします。

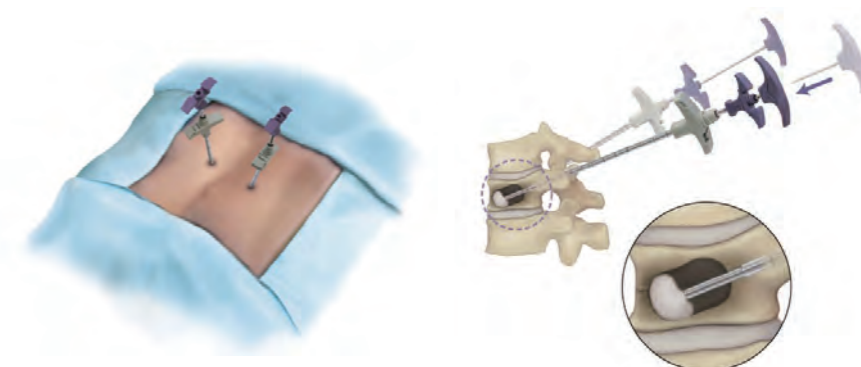


【手術に用いるデバイス(機器)の紹介】

BKP

（経皮的椎体形成術；圧迫骨折・椎体骨折に対して）

小皮切による低侵襲手術が可能です。即時除痛効果が期待できることがこの手術の最大のメリットです。



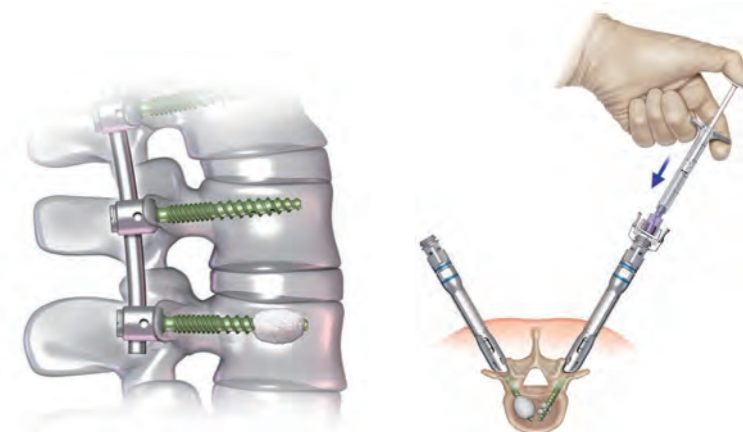
PPS percutaneous pedicle screw

：経皮的椎弓根スクリュー

Fenestrated Screw

（骨セメント併用スクリュー）

骨折や感染などにより、脊椎、椎体の不安定性が強い症例に対してスクリューによる固定を追加します。できる限り、安全に侵襲を少なく挿入できる工夫をしています。骨脆弱性が著しく、スクリューの効果が限定的と考えられた症例に固定力の増加目的に骨セメント併用スクリューを用います。

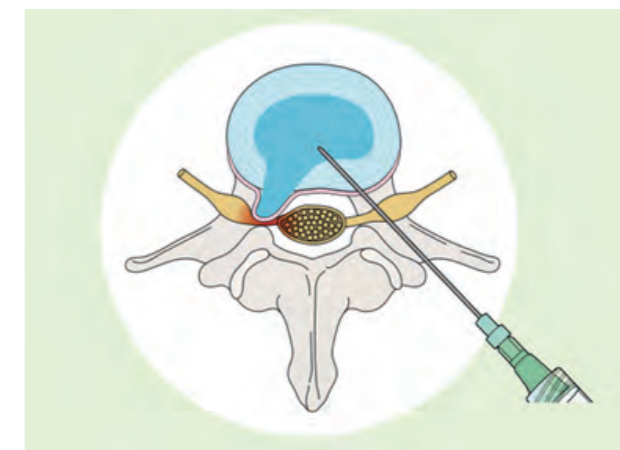


椎間板内酵素注入療法(ヘルニコア注入)

（腰椎椎間板ヘルニアに対して）

内服やブロック注射に抵抗性の症例に対して、手術加療を検討しますが、ヘルニアの形によっては椎間板内酵素注入療法を選択することもできます。

ヘルニコアはヘルニアを起こしている髄核に直接注射して治療を行います。髄核には保水成分が豊富にあるため、ヘルニコアを髄核に注射することで、有効成分のコンドリアーゼが髄核内の保水成分を分解し水分によるふくらみを和らげます。結果として、神経への圧迫が改善し、痛みやしびれなどの症状が軽減すると考えられています。





わたしの推し



中学2年沖縄にて

私の推しは息子になります。親バカで申し訳ございません。小学生から野球を初め今年の4月から高校生になりました。甲子園めざして日々奮闘中です。

介護福祉士 宮本 尊生

息子



小学4年生



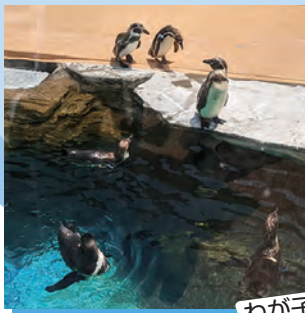
高校初公式戦



イルカショー

事務 雨谷 浩平

アクアワールド大洗



わが子の「推し」ペンギン

私、というか我が家の推しは「アクアワールド大洗」です。アシカやイルカ、ペンギン、サメ、クラゲ、チンアナゴ等々…たくさんの海の友達を子どもに会わせることができるので、年間パスポートを購入して、定期的に通って(!?) います。



水槽にくびったけ



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

茨城県西部メディカルセンター

Ibaraki Western Medical Center



〒308-0813 茨城県筑西市大塚 555 番地
TEL : 0296-24-9111 (代表) FAX : 0296-24-9171
予約センター : 0296-24-9172 (月曜～金曜 9:00～16:00)
H P : <https://www.iwmo.or.jp/>

- 診療科 内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、救急科、麻酔科 (水谷太郎)
- 受付時間 初診 月曜～金曜 8:30～11:00
再診 月曜～金曜 8:00～16:30
- 診療時間 9:00～17:00
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

筑西診療所

Chikusei Clinic



〒308-0847 茨城県筑西市玉戸 1658 番地
TEL : 0296-28-2261 (代表)
FAX : 0296-28-4471
H P : <https://www.iwmo.or.jp/page/dir000008.html>

- 診療科 内科
- 外来診療日 月曜日～金曜日 9:00～12:00 (受付は8:30～11:00)
- 訪問診療日 月曜日～金曜日 8:30～17:15
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

茨城県西部医療機構の職員(正規・非正規職員)募集中

病院ホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

■問い合わせ 事務部人事課 TEL : 0296-24-9111 HP : <https://www.iwmo.or.jp/>

